

平成25年度 私立学校専門研修会・次世代リーダー育成部会 実施報告

***** 研究のねらい *****

「伝統と改革の融合」

少子化や経済不況の影響などにより、学校経営環境が著しく変化する中、学校が未来永劫的に存続・発展していくことは社会的な使命でもあり、そのためには、学校経営者には「変化を読み取り柔軟に対応する能力」、「的確な決断を下すための知識」が求められる。そのような中であつては、将来的に学校経営の舵取りを任されることになる経営後継者に求められる役割と責任は大きい。

本部会では、自校の建学の精神、歴史を深く理解した上で、これからの時代を見据え、自校と経営後継者自身の理想の将来像を描き出すための考え方や視点を学び、その実現に向けて教職員と連携し自律的に行動するために必要となる様々な知識やスキルを習得する。また、現職の学校経営者が理想や現実を語り、その経験から得られた教訓などを次世代に伝えるとともに、関係者のネットワークづくりや情報交換の場とする。

本年度は、これからの私学経営に求められる最大の視点である「伝統と改革の融合」について考える。昨今、「伝統」への頑なな固執或いは無謀な「改革」によって経営危機に瀕している私学も一部見受けられるが、先達が培ってきた「伝統」をただ守るだけではなく、斬新且つ柔軟な発想による「改革」によって「伝統」を壊し教育のイノベーションを起こしていくことで私学の未来も見えてくる。そして、「改革」し続けて残っていくものが「伝統」となろう。これらを実践している現職リーダーの貴重な経験談や確固たる地位を築いてきた伝統校の改革実践などを通して「伝統と改革の融合」に迫る。

- ◆ 会 期 ◆ 平成25年10月31日(木)～11月1日(金)
- ◆ 会 場 ◆ 京王プラザホテル札幌
〒060-0005 北海道札幌市中央区北5条西7丁目2-1 (JR札幌駅徒歩5分)
☎ 011-271-0111
- ◆ 参加者数 ◆ 36名(募集50名)
- ◆ 参加対象 ◆ A 次世代リーダー(次世代の理事長・校長等)を志す者
B ニューリーダー(新任の理事長・校長等)
C 次世代リーダーを育成する現職リーダー(現職の理事長・校長等)

◆ プログラム内容 ◆

① 講演

演題「私立学校の次世代リーダーに望むこと」

講師 工藤 誠 — 聖光学院中学高等学校 理事長・校長

工藤誠一氏プロフィール

1955年神奈川県生まれ。明治大学大学院修了後、母校聖光学院中学高等学校に奉職。学校法人聖マリア学園理事、同学園法人事務局長、同校教頭などを経て2004年同校校長、2012年同学園理事長。(一財)神奈川県私立中学高等学校協会理事長、神奈川県私立学校審議会委員の外、(一財)日本私学教育研究所理事(法人管理事務運営専門委員長)、日本私立中学高等学校連合会常任理事などの要職を務める。2012年8月～2013年1月文部科学省「学校法人会計基準の在り方に関する検討会」委員。

②パネル・ディスカッション

テーマ「伝統と改革の融合」

・パネリスト

西 岡 憲 廣 札幌山の手高等学校 理事長・校長

西岡憲廣氏プロフィール

1940年北海道生まれ。法政大学卒業後、札幌香蘭女子学園高等学校（現札幌山の手高等学校）に奉職。学校法人西岡学園常務理事や同校事務長などを経て1987年同学園理事長、2000年同校校長。北海道私立中学高等学校協会副会長、(社)北海道私学厚生協会常務理事、北海道高等学校奨学会副会長、北海道高等学校教育研究会副会長の外、日本私立中学高等学校連合会評議員などの要職を務める。

工 藤 誠 一 聖光学院中学高等学校 理事長・校長

鈴 木 康 之 水戸女子高等学校 理事長・校長

鈴木康之氏プロフィール

1958年米国ハワイ州生まれ。早稲田大学卒業後、1982年水戸女子高等学校に奉職。1997年同校副校長、1998年学校法人水戸女子商業学園理事、同校校長。2009年同学園理事長。茨城県高等学校長協会副会長、茨城県スポーツ推進審議会委員の外、(一財)日本私学教育研究所理事(私学経営副専門委員長、全国私学教育研究集会副総括責任者)などの要職を務める。

・コーディネーター

木 内 秀 樹 東京成徳大学中学高等学校 理事長・校長

③教育懇談会

関係者間のネットワークづくりに資するための懇談会の開催【全員参加】

④講演

演題「伝統と改革の融合～福岡県私学の挑戦～」

講師 天 野 義 則 一般社団法人福岡県私学教育振興会 専務理事

天野義則氏プロフィール

一般社団法人福岡県私学教育振興会専務理事。福岡県に勤務し、長年、県の予算編成事務に従事。その後、学事課長、医療指導課長などを歴任。2009年3月総務部理事兼私学学事振興局長の職を最後に退職。私学学事振興局長在任中は、主として県立3大学の改革(3大学の独立行政法人への移行、学部の新設・改編など)を主導。2009年4月より現職。

◆ 日程概要 ◆

時刻	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
	30		30	45 30	30	10	15 30			30	20	00
10/31 (木)					受付	開 会 式	① 講 演	休 憩	② パ ネ ル ・ デ ィ ス カ ッ シ ョ ン	総 括 ・ 講 評	休 憩 ・ 移 動	③ 教 育 懇 談 会
11/1 (金)		④ 講 演	開 会 式	昼 食								

◆ 講師・指導員（順不同） ◆

森 本 正 夫 学校法人北海学園（北海高等学校・北海学園札幌高等学校） 理事長
 西 岡 憲 廣 札幌山の手高等学校 理事長・校長
 工 藤 誠 一 聖光学院中学高等学校 理事長・校長
 鈴 木 康 之 水戸女子高等学校 理事長・校長
 天 野 義 則 一般社団法人福岡県私学教育振興会 専務理事
 吉 田 晋 富士見丘中学高等学校 理事長・校長
 中 川 武 夫 淑徳 SC 中等部高等部 顧問

◆ 専門委員・指導員（順不同） ◆

木 内 秀 樹 東京成徳大学中学高等学校 理事長・校長
 近 藤 彰 郎 八雲学園中学高等学校 理事長・校長
 山 中 幸 平 学校法人山中学園（如水館中学高等学校） 理事長
 徳 野 光 博 学校法人東福岡学園（東福岡白蓮館中学校・東福岡高等学校） 理事長
 鈴 木 秀 一 一般財団法人日本私学教育研究所 事務局長

◆ 事務担当 ◆

川 本 芳 久 一般財団法人日本私学教育研究所 主幹

◆ 日程表 ◆

10月31日(木)〔会場 地下1階チェリールーム〕

12:30	
13:30	受付
	◇ 開会式 司会 鈴木秀一 (一財)日本私学教育研究所 事務局長 1. 開式 2. 開催地代表者挨拶 北海道私立中学高等学校協会 会長 森本正夫 3. 主催者挨拶及び講話 (一財)日本私学教育研究所 理事長 吉田 晋 4. 日程説明 5. 閉式
14:10	◇ 講演 司会及び講師紹介 山中幸平 (一財)日本私学教育研究所 次世代リーダー育成専門委員 演題 「私立学校の次世代リーダーに望むこと」 講師 聖光学院中学高等学校 理事長・校長 工藤誠一
15:15	休憩
15:30	◇ パネル・ディスカッション 司会及びパネリスト紹介 鈴木秀一 テーマ 「伝統と改革の融合」 パネリスト 札幌山の手高等学校 理事長・校長 西岡憲廣 聖光学院中学高等学校 理事長・校長 工藤誠一 水戸女子高等学校 理事長・校長 鈴木康之 コーディネーター 東京成徳大学中学高等学校 理事長・校長 木内秀樹
17:30	◇ 総括・講評 司会 鈴木秀一 総括・講評 (一財)日本私学教育研究所 所長 中川武夫
18:00	休憩・会場移動
18:20	◇ 教育懇談会〔会場 22階スカイバンケットルーム「ペガサス」〕 司会 鈴木秀一 1. 開会挨拶 (一財)日本私学教育研究所 理事長 吉田 晋 2. 乾杯 北海道私立中学高等学校協会 副会長 西岡徳廣 3. 懇談 4. 閉会挨拶 (一財)日本私学教育研究所 次世代リーダー育成専門委員 山中幸平
20:00	

11月1日(金)〔会場 地下1階チェリールーム〕

09:30	◇ 講演 司会、講師紹介及び進行 徳野光博 演題 「伝統と改革の融合～福岡県私学の挑戦～」 講師 一般社団法人福岡県私学教育振興会 専務理事 天野義則
11:30	◇ 閉会式 司会 鈴木秀一 1. 開式 2. 総括 (一財)日本私学教育研究所 次世代リーダー育成専門委員長 木内秀樹 3. 閉式
11:45	◇ 昼食
12:30	解散

◆ 概 要 ◆

平成 22 年度に改編した一般研修会の目玉として位置付けている本部会は、私立学校の将来を担う次世代リーダー（経営後継者）が、自校の建学の精神、歴史を深く理解した上で、これからの時代を見据え、自校と自身の理想の将来像を描き出すための考え方や視点を学び、その実現に向けて教職員と連携・協調しながら自律的に行動するために必要となる様々な知識やスキルを習得することを目的に設置された。現職のリーダー（経営者）が理想や現実を語り、その経験から得られた教訓などを次世代に伝えるとともに、私学関係者のネットワークづくりや情報交換の場として、「私学の次世代リーダーは私学全体で育成する」との高邁な精神の下に実施している。

本年度は、10 月 31 日（木）・11 月 1 日（金）の 2 日間に渡って、北海道札幌市・京王プラザホテル札幌において、募集人員 50 名に対し参加人員 36 名で実施した。

研究のねらいは、「伝統と改革の融合」とし、まず、地方の私学団体のリーダーである、開催地、北海道私立中学高等学校協会・会長の森本正夫氏（学校法人北海学園理事長）の挨拶で始まり、続いて、全国の私学団体のリーダーである当研究所の吉田晋理事長（富士見丘中学高等学校理事長・校長）による挨拶・講話では、私学関係者間のネットワークの重要性などを説き、次世代リーダーには自校のみならず、率先して私学全体の底上げのために尽力して欲しいと要請した。

次に、講演では、神奈川県を牽引する一般財団法人神奈川県私立中学高等学校協会・会長の工藤誠一氏（聖光学院中学高等学校理事長・校長）が、「私立学校の次世代リーダーに望むこと」と題し、現職リーダーとしての経験を踏まえ、経営者として考えるべき経営方針、学校運営における必要な知識、取るべき行動などをユーモアを交え且つ力強く披瀝した。

更に、パネル・ディスカッションでは、当部会の企画・運営の責任者である次世代リーダー育成専門委員長の木内秀樹氏（東京成徳大学中学高等学校理事長・校長）がコーディネーターを務め、全国各地で活躍する現職リーダー、北海道の札幌山の手高等学校理事長・校長の西岡憲廣氏、神奈川県の聖光学院中学高等学校理事長・校長の工藤誠一氏、茨城県の水戸女子高等学校理事長・校長の鈴木康之氏をパネリストに迎え、今般の研究のねらいに沿って、各パネリストの学校における伝統を踏まえての改革の必要性、改革の事例などが紹介された。

また、初日夜には、関係者間のネットワークづくりに資するため、全員参加による教育懇談会が行われ、参加者同士意見交換などを通じて懇親を深め、有意義な機会となった。

2 日目は、「伝統と改革の融合～福岡県私学の挑戦～」と題し、福岡県私学の今後の経営方針の指針ともいえるべく「第二次福岡県私立学校振興大綱～新しい時代に輝く私学を目指して(提言)～」の作成の中核的役割を担った一般社団法人福岡県私学教育振興会・専務理事の天野義則氏が、同大綱の内容について、グローバル化時代に対応できる人材育成を中心とした福岡県私学の取組（「学習支援センター」など）を中心に、地方財政のあり方、更には国家財政の展望などを解説した。

◆ 開 会 式 ◆



【関係者による事前打合せ】



【左：森本正夫氏（北海道私立中学高等学校協会会長）の挨拶。 右：吉田晋理事長の主催者挨拶及び講話】

●森本正夫氏（北海道私立中学高等学校協会会長）「開催地代表挨拶」

激動の時代、私学が生き残っていくには、まず、教員が自ら質を高めていくことが必要だ。

●吉田晋理事長「主催者挨拶及び講話」

私学はそれぞれ個性があり、日常的には個々の存在であるが、時として、数の力で行政に立ち向かうことも必要だ。また、人の繋がりには私学の財産であり、次世代リーダーには本研修会で同じ仲間同士ネットワークを構築して欲しい。

○参加者の声

中央では吉田理事長、地方では森本会長のような私学団体のリーダーが、私学の自主性、独自性を堅持するために様々な場面で奮闘している。次世代リーダーは、私学が一丸となって難局に立ち向かうことの必要性、また、その意義などを確認した。

- 私学の立場、今後の問題などが分かりやすく話され勉強になった。【次世代リーダー】
- 私学をめぐる現政権下の状況について、興味深く話を聞いた。【ニューリーダー】
- 文科省は最終的には私学に対する責任を取らない限り、私学は自立が必要であることを再確認した。【次世代リーダー】
- 次世代リーダーも互いに協力し、一丸となり私学のあるべき姿を発信していく必要性を痛感した。【次世代リーダー】
- 私学として日本の教育を担う決意が感じられ、今回の研修会の意義が明確になった。【次世代リーダー】
- 自校のことだけでなく、私学全体で力を合わせることの重要性を実感した。まだ自校のことで精一杯だが、理事長の力になっていこうと思う。【ニューリーダー】
- 私学の仲間同士、繋がっていくことの重要性を痛感した。【次世代リーダー】
- 私学とは何か、公立とは違う私学の在り方、私学を取り巻く現状を認識できた。【次世代リーダー】
- とても参考になる話であり、開会式の中ではなく、基調講演として話をして欲しい。【次世代リーダー】

- 改めて、私学の原点、建学の精神、先達の熱い思いを見つめ直す良い機会となった。【次世代リーダー】
- 国のいい加減さも良く分かった。【次世代リーダー】

◆ 講 演 ◆



【工藤誠一氏（聖光学院中学高等学校理事長・校長）の講演】

●工藤誠一氏（聖光学院中学高等学校理事長・校長）「講演:私立学校のリーダーに望むこと」

進学実績が高まると生徒が優秀故に教員の確保が難しくなる。教員の弾力的採用を可能とすることや、裁量労働制、公立学校の教職調整額に準じた制度を私学に適用すること、また、学習指導要領の弾力的運用などが必要性だ。学校経営に関しては、学校はトップによって変わるため、学校のグランドデザインを描ける人がキーマンにならないと学校は伸びない。ライバル校より一つ二つ秀でるもの、付加価値をいかに付けるかが鍵だ。

○参加者の声

工藤先生のリーダーシップにより、神奈川の私学は一丸となって発展している。それにより、個々の私学は独自の教育に邁進できる。私学が私学として成り立つためには、「個の独立、群の創造」が欠かせないという。「Be Gentleman !!」をキャッチフレーズにするミッションスクールのリーダーで敬虔なカトリック信者である工藤先生だが（穏やかなイメージ?）、アクションを交えたエネルギッシュな話し振りに、次世代リーダーらはカリスマ性のある強いリーダーの姿を見た。

- とても楽しく、ユーモアを交えた話の中に大変役に立つことが沢山あった。またどこかで話を聞いてみたい。【次世代リーダー】
- シンプルな原理と豊富な具体的実践例が大変参考になった。【ニューリーダー】
- 私学教育は、自由と社会的多様性が基盤にあるということに共感した。【次世代リーダー】
- 教学リーダーが財務を、事務リーダーがカリキュラムを読めなくてはならないという点に納得した。私学の組織は公立とは異なる形態であることを改めて考えさせられた。【次世代リーダー】
- 具体的且つ歯に衣着せぬ話が聞けて勉強になった。特に、教員の裁量労働時間制の話には共感した。【次世代リーダー】
- 戦略的視点に立ち、教育のみならず学校運営、教員対応、財務戦略に取り組んでいることに感銘を受けた。【次世代リーダー】
- 募集ターゲットを見定めたグランドデザインとその実践方法、また、教職員への具体的なアプローチなど大変感銘を受けた。【次世代リーダー】
- 私学運営のイロハを学べた。【次世代リーダー】
- 自由と社会的多様性という私学の原理に基づき、社会を築き子どもの夢を叶えることができる学校を作っていく必要性を感じた。グランドデザインを描くことを日々意識して進みたい。【次世代リーダー】
- パワー溢れる話に圧倒された。公私にはそれぞれ役割があることを再認識した。自校のキーマンは誰なのか考えてみたい。【ニューリーダー】
- 「個の独立、群の創造」、「クラブ活動の性善説」など、印象に残る講演だった。教員との面談などにより、良い人間

関係を築いていることに感銘した。【次世代リーダー】

- ❑ 目標とそのための手段が明快に結び付けられ、その基盤に揺るぎない建学の精神があることが講師の魅力とともに伝わってきた。「私学は〇〇崩れの集まりだから個性的」という件に、「〇〇崩れ」の一人として非常に勇気付けられた。

【次世代リーダー】

- ❑ 平等・社会的統合を基本的なスタンスとする公立に対し、私学は社会の多様性に貢献する使命を担っているという意見が参考になった。【次世代リーダー】
- ❑ 各校で目指すべき方向は多様だが、必ず共通するのが教員の資質であり、サラリーマン教師ではなく、時間を費やすことを惜しまない教師を増やすことが大切だと感じた。【次世代リーダー】
- ❑ 強いリーダーシップを感じた。【現職リーダー】
- ❑ 戦略的募集についての話が勉強になった。【次世代リーダー】
- ❑ 優秀な人材を確保するための具体的な採用方法なども今後聞きたい。【次世代リーダー】
- ❑ 「会社はトップの器でしか大きくならない」、「個の独立、群の創造」などは名言だ。理事長のあり方などは大変参考になった。【次世代リーダー】
- ❑ 私学の組織体制と運営について、根本的なことを楽しく学ぶことができた。リーダーとなる者は全体が分からなくてはならないと痛感した。また、そのための目標設定などの方策を具体的な事例で聞くことができ大変有意義だった。【次世代リーダー】

◆ パネル・ディスカッション ◆



【パネル・ディスカッション。左：コーディネーターの木内秀樹次世代リーダー育成専門委員長（東京成徳大学中学高等学校理事長・校長。右：パネリスト。左から西岡憲廣氏（札幌山の手高等学校理事長・校長）工藤誠一氏（聖光学院中学高等学校理事長・校長）鈴木康之氏（水戸女子高等学校理事長・校長）】

●西岡憲廣氏（札幌山の手高等学校理事長・校長）

日本人としてのアイデンティティをきちんと捉えた上での教育のグローバル化の推進が必要だ。特に、1校では限界があるので、スポーツを通じての国際交流のシステム作りが重要になる。

●鈴木康之氏（水戸女子高等学校理事長・校長）

今の子どもは受け身のため、答えのないことについてしっかり考えさせること、外国を感じさせること、根無し草にならないように日本文化も大事にすることが必要だ。小さな積み重ねが重要で、振り返ってみると随分変わったということもある。

●工藤誠一氏（聖光学院中学高等学校理事長・校長）

クラブ活動とどう向き合うかが大事だ。学校に縛り付ける時代は終わった。学校では土日を除いて週4日までクラブ活動は良いが、指導者については外部の専門家に依頼している。

○参加者の声

異なるタイプの3つの学校の改革事例は大変参考になった。各校とも伝統ある学校だが、伝統に裏打ちされた実績、自信に固執することなく、不断の改革が新たな伝統を作り出している。経営者であるトップの揺るぎないビジョンがあってこそ、それが実現できる。

- 伝統と改革の問題は、教員、職員の意識も大きく影響し、教員、職員を一つの方向に向かせることへの苦労や工夫が聞けて良かった。【次世代リーダー】
- それぞれ立ち位置の異なる学校の改革への取り組みが分かり、大変役に立った。改革をトップダウンからボトムアップへと移していくことの難しさはよく分かる。授業配当までトップで決めるといふことには驚いた。今後の運営に活かしていきたい。【ニューリーダー】
- 各校の生き残りをかけた努力に敬意を表するとともに、とても刺激を受けた。【次世代リーダー】
- 職員との触れ合い方、学校として続けていくべき伝統など、考えさせられることが多かった。【次世代リーダー】
- 各校の様々な工夫が勉強になった。自校でも取り入れられる部分について種を蒔いていきたい。【次世代リーダー】
- 伝統と改革の融合は、今自校で取り組んでいる課題であり興味があった。しかし、改革＝グローバル化にはやや違和感もある。グローバル化は世間の変化による必然であり、IT教育などと同じように当然に求められるものであろう。それ以外でも、例えば、建学の精神に立ち返った変革のあり方などもあるのではないかと感じた。【次世代リーダー】
- 学校毎の特色の違いはあるが、建学の精神に基づきカラーを生かしながら未来のグランドデザインに力を入れていることに大変刺激を受けた。【次世代リーダー】
- 各校のリーダーとも強い信念をもって取り組まれてきたことが窺える内容だ。厳しい時代があり、それを乗り越えてきたことは理解できた。自身は管理職の見習いをしており、信頼関係では今後とも現場とはコミュニケーションを取り続けるが、その距離感、また、管理職同士の距離感でアドバイスをいただきたい。【次世代リーダー】
- リーダーには、その日、その時における決断と、それに伴う責任を取ることが必要だと痛感した。常にアンテナを張り、学校の進むべき道を考え、判断し責任を負うというリーダーの厳しさとともに、だからこそ人の繋がりを大切に、支え合うことの大切さを感じた。【次世代リーダー】
- 各学校の伝統は異なっても、しっかりとしたグランドデザインの下に学校運営されていることに感動し、大変勉強になった。その中でいくつか参考にしてみたいキーワードは、「スポーツ留学」、「ノイズかサインかを見極める」、「らしさ」とは何か、「愛校心」、「変えたくないものは検討さえさせない」などである。【ニューリーダー】
- 小さな差別化の積み重ねがあつて公立との大きな差別になるという発言に納得した。伝統に誇りを持つこと、また、その伝統を守るために改革を進めていくことが重要であることを再認識した。【次世代リーダー】
- 異なる個性と特色を持つ3校の話聞き、自校の現状と課題について重ね合わせて考えるヒントをいくつか貰った。例えば、西岡氏からは、女子高から共学校とし、スポーツ伝統校から進学実績づくりのための課題について、工藤氏からは、弾力的な教員採用と行事やセレモニーに込められた意味について、鈴木氏からは、礼法を正課や学校生活の中に取り入れることで「型」を作ることの大切さについて、これらが特に印象に残ったヒントだ。【次世代リーダー】
- ディスカッションの雰囲気にならなかったのは残念だが、各校の伝統と改革の内容はよく分かり実りある時間となった。【次世代リーダー】
- 生徒を指導する時に役に立つ話ばかりであった。自校も併設大学との7年間一貫教育を打ち出しており、今後の取組にヒントになる話であった。【次世代リーダー】
- 各校の理念とその具体的取組、私学の役割、各校の役割と使命が感じられるものであった。【現職リーダー】
- 各校での実践的な話は大変説得力があり、是非自校でも実践したいことばかりであった。【次世代リーダー】
- 同じテーマで多様な実践を即座に聞くことができるパネル・ディスカッションは大変有意義で、今後も続けて欲しい。【次世代リーダー】
- コーディネーターの運営が大変良かった。学校での会議のあり方について、全員参加の学校もあれば、日数を極端の減らして行く学校もあり、運営方針・手法も様々で参考になった。【次世代リーダー】
- 各パネリストの実績に裏打ちされた含蓄のある話に感銘した。【次世代リーダー】
- トップがグランドデザインを示すことの大切さ、気付くことの大切さ、建学の精神の大切さを改めて感じた。自校でも提言したい。【次世代リーダー】
- グローバル化になったからこそ日本人として当たり前のことを当たり前で推進し、学校全体でそれを行っているということが印象的だった。グローバル社会に有為な人材は、日本人としてのアイデンティティーをしっかりと持った人間でなければならないと痛感した。【次世代リーダー】

◆ 総括・講評 ◆



【中川武夫所長の総括・講評】

●中川武夫所長「総括・講評」

リーダーの条件は、孤独に耐えられるかだ。孤独に耐え、自ら決断、結果責任をとること、また、自らを研鑽する場がこの研修会だ。

◆ 教育懇談会 ◆



【教育懇談会。左上：吉田晋理事長の開会挨拶。右上：西岡憲廣氏（北海道私立中学高等学校協会副会長）の乾杯発声。右下：山中幸平副理事長の閉会挨拶】

○参加者の声

これまで一日終日の研修後の希望者による懇談会を実施してきた。本年は一泊二日の研修にしたため、初日夜は「全員参加」による懇談会を実施した。円卓着席スタイルでゆっくりと懇談ができる雰囲気を作り、関係者間のネットワークづくりに資することができ、概ね好評であった。

- 同一テーブル内の少人数での交流で、有意義な意見交換ができた。【次世代リーダー】
- 実りの多い時間だったが、立食の方が多くの人と話ができる。【次世代リーダー】
- 多くの交流ができ最も有意義だった【次世代リーダー】
- 同じ私学人としての悩みの共有や情報交換ができ良かった。【次世代リーダー】
- 地域やバックグラウンドの異なる人と親しく話ができ有意義だった。【次世代リーダー】
- 教職員に対して今後の方向性を示していく際の具体例などを勉強させてもらう良い機会となった。【次世代リーダー】
- 新しい人との繋がりができ、良い機会となった。【次世代リーダー】
- 様々な話題で大変有意義な機会となったが、他のテーブルの人とも交流してみたかった。【ニューリーダー】
- 若手ながら各校でリーダーシップを発揮されている人と交流でき嬉しかった。人が一番の財産だと思う。【次世代リーダー】
- 普段話ができない他地区の人とゆっくり話ができ、参考になる話を多く聞くことができた。【次世代リーダー】
- 様々な地区の人との話の中で、それぞれの地区の実情、それに応じた取組を聞くことができ有益だった。【次世代リーダー】
- 初めて会う人が殆どなので、座席を指定し、座席表があればもっと話し回れたのではないか。【次世代リーダー】
- 他地区でも同じ立場や状況にある人たちとは本当に良い仲間になれると感じた。宿泊を伴う研修会だからこそこの良い機会だ。【次世代リーダー】

◆ 講 演 ◆



【天野義則氏（一般社団法人福岡県私学教育振興会専務理事）の講演】

●天野義則氏（一般社団法人福岡県私学教育振興会専務理事）

「講演：伝統と改革の融合～福岡県私学の挑戦～」

福岡県私学協会が中心となってまとめた、今後の福岡県私学の方向性を示す提言「第二次福岡県私立学校振興大綱」において、私学の現状と課題を分析し、今後の私学の役割を明確にした。具体的には、グローバル化時代に対応できる人材の育成を重要項目に掲げ、英語教育の充実、海外、特に、今後経済発展が見込まれるアジア諸国（中国、インド、マレーシア、インドネシア）を意識した教育の交流を積極的に行うことが必要だ。

○参加者の声

講師の天野氏は、長年福岡県の予算編成事務に従事し、また、私学主管課長も務めるなど、私学行財政はもちろんのこと、国や地方財政のあり方にも精通している。その経験を踏まえて、私学助成の仕組みやそのあり方、獲得運動の方針なども示した。公教育において私学の果たしている役割は大変大きいことから、福岡県私学の「学習支援センター」の取組は、公私を問わず多くの県民に受け入れられており、全国的に大きな影響を与えるものである。

- 「学習支援センター」の取組は大変勉強になった。【次世代リーダー】
- 福岡県私学の取組に羨望を感じる。都道府県という広い範囲での取組は困難だが、地域を限定して話題にしていきたい。【ニューリーダー・次世代リーダー】
- 「学習支援センター」の取組を考えて、自県行政に働きかけたい。【次世代リーダー】
- 今般の研修目的からは若干趣旨の違う内容だった。【次世代リーダー】
- アジアの教育動向を含め、中高教育をめぐるマクロを中心とした教育行政につき興味深く聞いた。【次世代リーダー】
- 「学習支援センター」の取組を全国に拡げていくべきだ。【次世代リーダー】
- 福岡県私学は「学習支援センター」のみならず、多岐に渡る戦略的取組を行っていることに感心した。【次世代リーダー】
- 数値的なデータをはじめ、改革のポイントを客観的視野で教示してもらえた。【次世代リーダー】
- アジア諸国からの留学生を増やしていく話が印象的だ。教員が自ら勉強会を主宰していく仕掛けを作りたい。【次世代リーダー】
- 公私協調や私学のまとまりが大変参考になった。【次世代リーダー】
- 自県の私学協会の今後の事業について非常に参考になるものであった。【次世代リーダー】
- 自校と併設大学で取組みたい内容が多くあり参考になった。【次世代リーダー】
- 公立との差別化、弾力的運用などは一つの私学では出来ない。私学協会の大きな力を感じた。【次世代リーダー】
- 福岡県私学の財務状況がよく分かった。地の利を活かしたアジア諸国との交流事業は参考になり、APUとの連携にも興味を持った。【次世代リーダー】
- 福岡県は私学と行政との関係が強いと改めて感じた。しかし、行政には毅然とした態度で臨むことが必要だ。また、自県でも「学習支援センター」のように公的機関を代替するようなものを公立に先駆けて設置し、事業として考えていく必要があると感じた。【次世代リーダー】

◆ 閉会式 ◆



●木内秀樹次世代リーダー育成専門委員長「総括及び挨拶」

自校では2年後に創立90周年を迎える。その際、100年に向けてのビジョンをまとめるが、理念に基づいた目標なしでは改革は出来ない。私学は大きな目標を見失ってはならない。今後も本研修会は継続する。最大の目的は関係者間のネットワークづくりにある。人との繋がりを財産にして、次世代リーダーには私学全体を考えて活躍して欲しい。

◆ 要望等（参考） ◆

- 有事の際の対処法に関する予備知識（法令、判例など）を学ぶプログラムが欲しい。【次世代リーダー】
- 地方都市の学校で、学校改革で顕著な成果を上げている学校の事例を紹介して欲しい。【ニューリーダー】
- 生徒確保のための実践例を聞きたい。【次世代リーダー】
- ミドルリーダークラスに対する私学行政や教育制度、財務諸表の見方などの研修を実施して欲しい。【次世代リーダー】
- 引き続き、この研修会に参加したい。リーダーに必要な心構えを学べる場として期待している。【次世代リーダー】
- 参加者同士がディスカッションできる場が欲しい。【次世代リーダー】
- 教育ビジョンや建学の精神の現代化といった教学面と、経営、人材育成、財務といった管理運用面の両者を扱ったテーマ設定が望まれる。【次世代リーダー】
- 労務関係のセミナーを希望する。【次世代リーダー】
- 経理を学ぶ研修を希望する。【次世代リーダー】
- 学校内に良い力を作り出すヒント、実践について学ぶ機会があると望ましい。【次世代リーダー】
- スポーツ系コースを細分化している学校、文化部の活動が盛んな学校、進路実績が急減に上がった学校を紹介して欲しい。【ニューリーダー】
- グループ・ディスカッションを取り入れ、多くの学校の取組について学べる機会が欲しい。【次世代リーダー】
- 今後のICT教育について、その教育的効果等について学ぶ機会が欲しい。【現職リーダー・次世代リーダー】
- 社会の変化に即応した私学のあり方、少子化対策、私学としての不易な考え方等を取り上げて欲しい。【次世代リーダー】
- 3年連続して参加し、どの年も申し分のない研修会だった。次年度以降も同様の趣旨で継続して実施して欲しい。【次世代リーダー】
- 学校視察を実施して欲しい。【次世代リーダー】

◆ 都道府県別参加者数（参考） ◆

都道府県名	人数（名）	都道府県名	人数（名）	都道府県名	人数（名）
北海道	4	静岡県	1	奈良	2
青森	1	愛知	1	広島	2
千葉	3	京都	1	福岡	1
東京	9	大阪	3	大分	1
岐阜	1	兵庫	5	鹿児島	1
				計	36